令和 5 年度文化庁委託事業
「地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会（九州地域）」開催要項

1 事 業 名　地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会（九州地域）」

2 趣　　旨　劇場・音楽堂等の職員を対象として、施設の管理運営を行う上で直面している課題について専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。

3 主　　催　文化庁・公益社団法人 全国公立文化施設協会

4 開 催 日　令和５年９月２８日（木）～９月２９日（金）［２日間］

5 会　　場　宝山ホール（鹿児島県文化センター）第３会議室
〒892-0816 鹿児島県鹿児島市山下町 5-3
電話 099-223-4221

6 日程及び内容　別紙のとおり

7 受 講 者　(1) 劇場・音楽堂等に勤務する職員（指定管理者及び劇場・音楽堂等の管理・運営業務等を受託している企業等からの派遣職員も含む）
(2) 地方自治体の文化芸術行政担当職員及び劇場・音楽堂等施設関係者
(3) 民間の舞台技術関係者、大学等の高等教育機関・舞台技術やアートマネジメントの教育関係者・学生等、また関心のある市民等

8 申込方法　参加申込書に必要事項をご記入の上、提出してください。

9 申込期日　令和５年９月８日(金)

10 連絡・問い合わせ先
公益財団法人 宮崎県立芸術劇場 担当:総務課 宮﨑
TEL:0985-28-3216 ／ FAX:0985-24-7676
E-mail:kyushushibu@miyazaki-ac.jp

研修会テーマ　　「これからの『連携』について考える」

公立文化施設を取り巻く環境は、年々厳しくなってきています。公立文化施設の設置主体である自治体からの財源の削減、少子高齢化による人口減、劇場法による劇場の役割の変化。

しかし一方では、コロナ禍を経て、文化芸術の果たす役割への期待の高まりを感じます。

そのような中、公立文化施設が地域の文化の拠点としての役割を果たしていくために、それぞれの施設が単独で事業を企画・運営していくのではなく、他館や地域住民、関係団体等と連携していくことにその活路を見い出す動きが活発になってきています。

この研修会では、効率的な事業実施のために、また、公立文化施設がその役割を果たしていくためにどのような連携の可能性があるのかを、いくつかの事例をもとに考えていきたいと思います。

今回の研修会で取り上げるのは　次の 3 つの事例です。

まず、C-WAVE ネットワーク協議会です。

C－WAVE という名称は、文化（Culture）を創造（Creation）し、伝達（Communication）する、うねる波(Wave)となることを目指してつけられたもので、平成 5 年に大分、宮崎県内の 7 館により設立されました。以来 30 年、現在は、福岡県、熊本県、宮崎県、鹿児島県の 11 館が加盟、今年の 2 月には 100 回目の定例会を開催しています。

30 年前から「連携」の大切さを体現している、まさに先駆者。C-WAVE の“これまで”と“これから”を知ることで、公立文化施設同士がつながることの意義を考えます。

次は、広島県が県内公立文化施設と共に実施している「文化芸術に係る地域住民参画型モデル事業」です。このモデル事業は、広島県が公共ホールと地域住民の新たな関わりを模索するために、令和 4 年度～5 年度にかけて実施している現在進行形の事業。研修会では、モデル事業を企画した広島県文化芸術課の方と、モデル事業を実践している はつかいち文化ホールウッドワンさくらぴあ の方からお話を伺います。

地域住民は、公立文化施設の在り方を語るうえで欠かすことのできない重要な存在です。モデル事業発案の背景やモデル事業実践の過程から、地域住民とのコミュニケーションが施設運営にもたらすものを探ります。

最後は、いわき市地域包括ケア igoku（いごく）です。

igoku は、いわき市役所の地域包括ケア推進課が手掛けているメディアで、「老・病・死」をテーマに、地元のクリエイターと手を組み、フリーペーパーとウェブで情報発信している官民共創のチームです。タブー視しがちな死や老いの話題を、アートを介在させることでポジティブでポップに伝えています。行政とは思えないほどの大胆でユニークな取り組みは、2019 年度のグッドデザイン賞金賞を受賞しています。

igoku の取り組みからは、「こういうことも一緒にできれば楽しんじゃないですか？」といった、福祉分野との連携のアイディアをもらえるかもしれません。

これらの事例をひも解き、これからの「連携」の可能性を考えていくために、芸術文化観光専門職大学副学長 教授 藤野一夫氏に、コーディネーターとして御参加いただきます。

【藤野一夫教授からのメッセージ】

私は 2011 年に上梓した『公共文化施設の公共性　運営・連携・哲学』（水曜社）の中で、公共劇場が、地域社会・市民社会づくりの有力なメディアとして公共的役割を果たすために不可欠なネットワークの形成について、以下の２点に大別して行った調査研究を公表した。

(a) 地域の文化団体、商店街、市民組織（NPO）、大学・教育期間等との間でのネットワーク化。

(b) 近隣もしくは県内の公共文化施設との間でのネットワーク化。具体的には、芸術文化情報の非対称性を是正し、情報ハブ機能によって公共文化施設間の共存共栄を促進する。また、他の公共文化施設への舞台技術面、プロデュース面での支援など。

さて、これらの観点は 2012 年の劇場法でも一定程度取り入れられた。また、私も参加した(一財)地域創造の研究会では「文化的コモンズ」をキーワードとして、公立文化施設が地域のさまざまなアクターやセクターを結びつけ、文化面での公共財や共有地を形成するネットワークハブとなるべきことを提案した。

さらに 2017 年に改訂された文化芸術基本法では、文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野における施策を本法の範囲に取り込むとともに、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用することが、新しい(拡張された)文化政策の責務とされている。

ここ 10 年あまりで「連携」の意味領域が多様化・重層化してきたと同時に、「連携」こそが、公立文化施設が果たすべき社会文化的機能の中心となってきたのである。こうした公立文化施設を取り巻く社会・経済環境の変化を踏まえて、これからの「連携のかたち」について、実務家のみなさんと共に考えてみたい。

研修会の最後には、コーディネーターと各事例の発表者、そして会場の参加者の皆さんと一緒に、「つながることから生まれる新たな文化」について考えていきたいと思います。

令和 5 年度文化庁委託事業

「地域別劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修会（九州地域）」開催要項

日程・内容

日　程：令和5年9月28日（木）～9月29日（金）

会　場：宝山ホール（鹿児島県文化センター）第3会議室

日 時		科目	内　容	講 師
9/28（木）	12:30～13:00	受付	宝山ホール（鹿児島県文化センター）第3会議室	
	13:00～13:10	開講式	部会長挨拶　髙林 宏一 〔宮崎県立芸術劇場常務理事兼副館長〕 開催館挨拶　寺地 浩一 〔宝山ホール（鹿児島県文化センター） 専務理事兼館長〕	
	13:10～14:30	講 演	「連携共同体の形成から考える公立文化施設の公共性」	芸術文化観光専門職大学 副学長　教授 藤野一夫氏
			休憩	
	14:40～15:40	事例発表 Ⅰ	「地域への想いを受け継ぐ仲間が、時代を作る」	C-WAVE ネットワーク協議会 会　　長 福井宏征氏 事務局長 櫻川勝志氏
			休憩	
	15:50～16:50	事例発表 Ⅱ	「文化芸術に係る地域住民参画型モデル事業」	広島県環境県民局文化芸術課 主 査　桑木 悠丞氏 はつかいち文化ホール ウッドワンさくらぴあ 副館長 重村 幸雄氏
9/29（金）	9:00～9:20		受付	
	9:20～10:20	事例発表 Ⅲ	「文化・芸術の力で人も地域ももっと好きになる ー福島県いわき市 igoku の事例を通じてー」	いわき市保健福祉部地域医療課 事業推進員 猪狩 僚氏
			休憩	
	10:30～12:00	パネルディスカッション	パネルディスカッション 「これからの『連携』を考える ～つながることから生まれる新しい文化～」	芸術文化観光専門職大学 副学長　教授 藤野 一夫氏 C-WAVE ネットワーク協議会 会 長 福井 宏征氏 広島県環境県民局文化芸術課 主 査 桑木 悠丞氏 はつかいち文化ホール ウッドワンさくらぴあ 副館長 重村 幸雄氏 いわき市保健福祉部地域医療課 事業推進員 猪狩 僚氏
	12:00～12:10	閉講式	部会長挨拶 次期開催館挨拶	